

## ◆◆◆ 入選作品の紹介 ◆◆◆

(国税庁長官賞)

「誰かを支える大人に」

雫石町立雫石中学校 3年

よこて ここは  
横手 光華 さん

もし税金がなくなったら道路は穴だらけ、ゴミも回収されず散乱し、警察や消防を呼ぶ時さえお金がかかります。学校に通うには多くのお金が必要で、通えない子供も出てきます。租税教室で見た動画の中の日本は、想像すると恐ろしく、今でも鮮明に思い出せます。

私は母子家庭で祖父母と暮らしています。母は会社員、祖父はシルバー人材センターの会員、祖母はパートをしています。私は「母子家庭なのになぜやりたいことが不自由なくできるのだろう。」と不思議に思っていました。私は租税教室の後、税に関係があるか母が話していたことを思い出しました。私の暮らす雫石町では社会保障が手厚く、母子家庭は高校生まで医療費が母子ともに無料、制服などの学用品、修学旅行でかかるお金も援助されます。限られた人にしか使われないけれど、全ての子供達が健康で、誰もが平等に同じ教育を受けられるように税金が使われていて、与えられている機会を大切に一生懸命学ぼうと思いました。また、私の祖父が会員として働いているシルバー人材センターは、「定年で仕事を辞めたけれどまだ働きたい。」「ずっと一人なのは寂しい。」という高齢者が今までの経験や能力を生かして働くことができる事業団です。祖父は仕事がある日はいつもより早起きをし楽しそうに働きに行きます。ま

た、新しく入ったチームの仲間について話しをして生き生きとしています。全国の市町村にあるシルバー人材センターは公益法人として国や都道府県から援助を受けていて、歳出されていることを知りました。私は、高齢者が働くことで生きがいを得て元気に生活できる人が増えることで高齢者施設の負担も減り、更に高齢者の力が地域社会の活性化につながる素晴らしい取り組みだと思ったし、少子高齢化が進む日本に必要な取り組みに税金が使われていることに、うれしくなりました。そして、私の世代の人達に、税金は日本の未来を支える取り組みにも使われていることを伝えたいと胸が熱くなりました。

私は税金について知っていくほど、人のつながりと誰かを支え、誰かに支えられていることの幸せを感じました。税金があるおかげで、町営の陸上競技場は作られ練習ができるし、学校で仲間と一緒に学ぶこともできます。また、母子家庭でも家族と一緒に過ごす時間があります。たくさんの方が関わって誰かを支え合っている税金の仕組みは、自分の幸せだけでなく他者に幸せを分けてあげる、人の思いやりで作られていると感じました。

私はあと十年もしないうちに働いて消費税だけでなく、所得税も納めるようになります。「税金のせいで生活が苦しくなる」という考え方ではなく、「自分も誰かを支え、社会の役に立っている」と誇りに思い、誰かに支えられている安心感から誰かを支えている責任を持った大人になりたいです。

(全国納税貯蓄組合連合会優秀賞)

父が教えてくれた、命と生活を守る税

奥州市立江刺第一中学校 3年

阿部 武琉 さん

小学3年の夏、300円分の遠足のお菓子を母親と買いに行った。必死に計算しながらおかしを選んでいる私に、母が「消費税を考えて計算してね。」と言ってきた。「しょうひぜい？」消費税を理解していなかった私はその場で母親に消費税について教えてもらった。その時はなんとなく理解したが、すぐには買えるお菓子の量が減ってしまうことに気付いた。幼い私は得体のしれない消費税という難敵に震えるように怒った。抑えきれない怒りを見えない難敵にぶつけることはできず、母親にぶつけたが、どうにもならないことだと言われ、仕方なく納得することにした。

今までは当たり前のように払うようになった消費税だが、私たちが納めている税金は果たしてどのように使われているのかを消防士である父に聞いてみた。

父は2011年に発生した東日本大震災の話をし始めた。

甚大な被害をもたらした大地震は、2万人以上の尊い命、20万棟以上の家屋と人々の日常を飲み込んだ。被災地の復旧復興は今もなお続いているが、多くの街と生活が戻ってきている。この街の復旧復興は多くの税金によって実現されたというのだ。また、父は消防士として被災地に派遣されたが、父のように被災地に赴いた消防士や、警察官、自衛隊の方々の給与はすべて税金でまかなわれていること、日本では毎年多くの自然災害が起きているが、国民が日々

納めている税金が災害にあったたくさんの人々の救いになっていること、消防署にある救急車や救助器具、病院の医療器具なども税金で購入されていることなどを父は教えてくれた。

また、日本では救急車を呼んでも費用はかからないが、アメリカでは1度の使用で約4万円の費用がかかるそうだ。なぜ日本では救急車を呼んでも無料なのかを父に聞くと、お金がない人が救急車を呼ぶのをためらって、救える命が救えなくなってしまうからだを教えてくれた。貧富の差に関わらず、税が使われることはいいことだと感じた。

以前、部活動の練習試合で沿岸に行ったとき、海沿いには高く長い、新しい防波堤がずっと続いていた。二度と津波で大きな被害を出さないぞという決意が大きな防波堤から感じられた。(おそらくこれも税金で建てられたのかな) と思いながら、税金が町の人々の命と生活を守っていることを実感した。

1万円の物を買いたいときは11000円はらわなくてはならないが、その1000円が誰かの人生や、将来の自分、今後の日本を支えてくれるのだと思うようになった。小さい時に感じた難敵への怒りは、父との会話できれいに消えた。

(岩手県知事賞)

税金の重要さ

遠野市立遠野東中学校 3年

佐々木 悠希 さん

一「挨拶・返事」 二「意欲・姿勢」

三「身だしなみ」

アスリートスタンダード、として常に意識している言葉。

私は小学校五年生から「いわてスーパーキッズ」として、県内各地から集まった仲間と運動能力向上に必要な基礎トレーニングについて、オリンピアの先生方をはじめ、各種目で優秀な成績を収めた素晴らしい講師の皆さんから指導を受ける機会をいただいています。

これまで、小学生の時には二十九人の仲間と月三回、現在は十八人の仲間と月一回程度の活動を行っています。

「いわてスーパーキッズ」の目標は、「世界で活躍するトップアスリートとなる人材の発掘・育成を目指す」ことです。この活動を通じて、県内各地の体育施設や学校などを会場に、多くの競技に触れ、多くの講師の先生や高校生の皆さんと出会い、そして沢山の新しい発見ができる素晴らしい経験をしています。そして、その全てが無料です。

ある時、自分がこのような貴重な経験をする事ができているのに、なぜ無料なのか疑問に思い、両親に聞いてみたことがあります。

「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」という岩手県の事業によって運営され、必要な予算として一千百万円ものお金が充てられ、それは「県民税」と呼ばれる税金で

賄われているということを知りました。

それまで、ただ参加することや、その競技について自分が感じたことなどしか考えたことはありませんでしたが、なぜ自分が無料で体験できているのか、その仕組みを知り、私はとても恵まれていることに気づかされました。私が貴重な経験の数々を重ねていること、それは税金のおかげ。何より納めてくれる県民の皆さんのおかげだということ。もし、税金が無ければ、このような事業に参加することはできず、沢山の競技に触れる機会もなかったと思います。

それまでの自分は、税金に対しては身近な消費税について、物を買ったときにも取られてしまうという嫌な思いしかもつことができていませんでした。ですが、自分の経験を通じて、競技指導の講師の方、会場の使用料、運営サポートしてくれる事務局の皆さんなど全てが税金によって成り立っているということを知り、税金に対する考え方は、悪いイメージから、社会にとって大切な仕組みであるということを知りました。そして、自分はその仕組みによって特別な機会を与えられ、特別な経験ができているということも。

今自分を支えてくれている多くの皆さんの期待に応えられるよう、アスリートスタンダードを身につけてスポーツで活躍し、きちんと税金を納められる人間になり、恩返しがしたいです。「スポーツと出会う素晴らしい機会と夢と希望を与える。」納税によって拓かれる人生があるということを感じています。